

八国見山南面

樹木皆伐 地肌むきだし

映像作家 吉田さん 霊園開発現場を空撮

秦野市渋沢の八国見山(319m)南面区域での大規模な霊園開発を追跡する同市千村の映像作家で「ネイチャーシネプロ」代表の吉田嗣郎さんが4月、造成が進められる現場を、高度約100m付近から超広角レンズで撮影した。深く切れ込んだ谷あいで埋め立てが始まり、樹木の皆伐によって地肌がむきだしになっている。

【高橋和夫】

霊園開発は広さ約19・9畝。事業者の公益財団法人「相模メモリアルパーク」(愛川町)の計画では、頂上付近にある電波塔の直下から延びる尾根筋を削り取った残土で、中村川源流域の谷あいを埋め立てて霊園区域を造成するとしている。

南面区域は大磯丘陵と丹沢山地を結ぶ緑の回廊にある里山。国蝶オオムラサキの県内最大級の繁殖地であり、国立公園に匹敵す



八国見山南面区域で谷の埋め立てが進められる霊園の建設現場—秦野市渋沢で4月(吉田嗣郎さん提供)

る種類の甲虫類が生息する県内では第一級の自然だった。空撮の写真は、破壊された開発

現場をとらえた。

八国見山を含めた渋沢丘陵では、1923年の関東大震災で丘陵の一部が長さ約200mにわたって地滑りを起こし、市木沢をせき止めて震生湖ができした。霊園開発に反対する自然保護グループ「渋沢丘陵を考える会」のメンバーは「地滑りが起こりやすい丘陵での大規模開発は災害を招く心配がある」と警鐘を鳴らしてきた。

吉田さんは動植物など数多くのネイチャー作品を作ってきた国内トップクラスの映像作家。「美しい自然が跡形もなく消滅し、悔しさを通り越して悲しい」と嘆いている。